



【参加時の留意点】

<ミーティングリンク>

・<https://ishikawapf.webex.com/meet/type-s>

- **参加時の表示名は必ず「所属組織 所属部署 氏名」で設定してください。**
※必要に応じて事務局にて、表示名を「所属組織_所属部署_氏名」へ変更させていただきます。
- 通信環境の安定を目的に、**発言時を除き、カメラはオフ、マイクはミュートにしてください。**
- 発言を希望する場合は、WebExの画面下にある挙手ボタンを押していただき、司会者または事務局から指名された後に発言してください(発言が終わりましたら、挙手ボタンを下げてください)

開始まで今しばらくお待ちください

議事次第

令和7年1月14日(火)10:00 ~ 12:00
石川県行政庁舎 5階 511会議室
(オンライン開催)

1. 開会

2. 議事

- (1) 成果物(標準仕様書・導入手順書)の構成
- (2) 標準仕様書・導入手順書それぞれの個別論点に係る協議(検証および検討)
- (3) 全体質疑・事務連絡

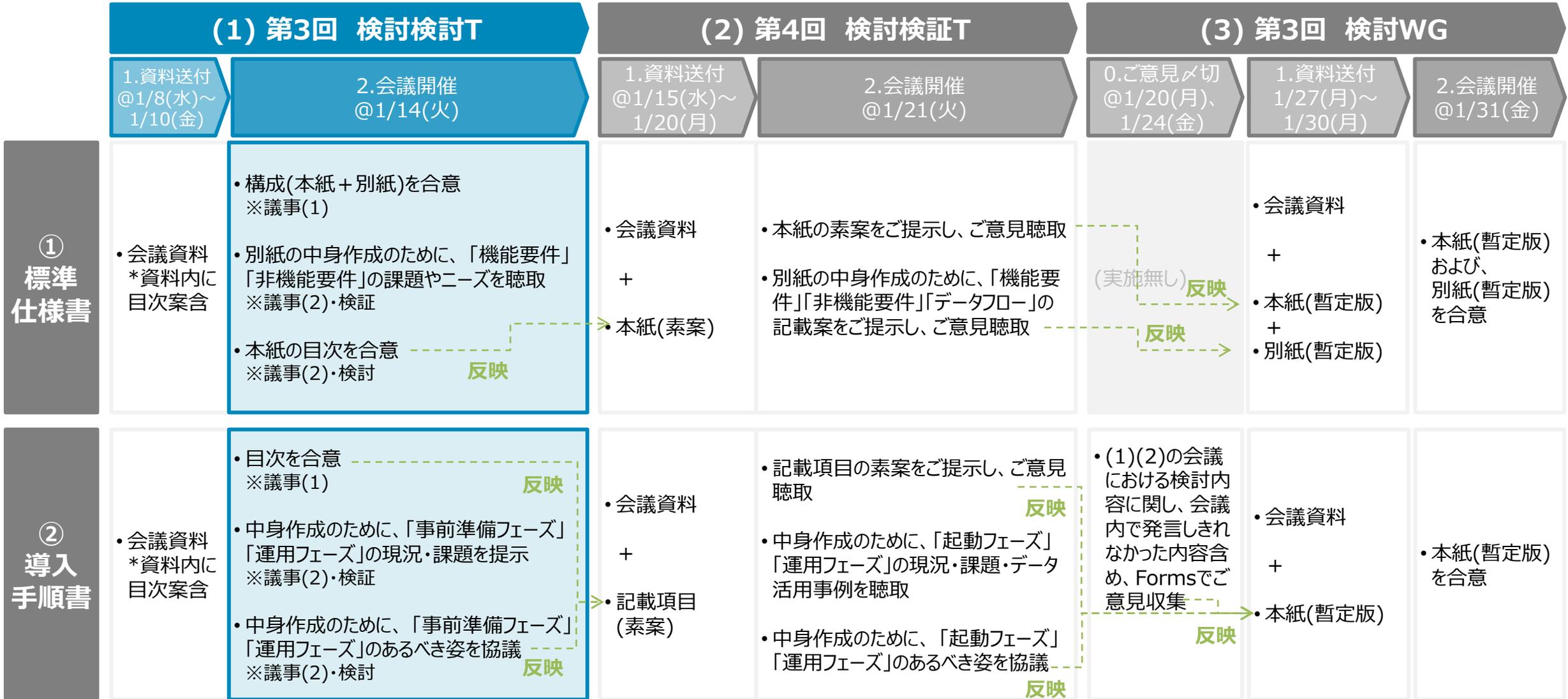
3. 閉会

<配布資料>

- 資料1_20250114_第3回検討検証T資料_概要資料_v2
- 資料2_20250114_第3回検討検証T資料_議事(2)標準仕様書_v2
- 資料3_20250114_第3回検討検証T資料_議事(2)導入手順書_v2
- 参考資料1_広域被災者データベース・システム構築検討ワーキンググループ開催要綱、委員名簿
- 参考資料2_これまでいただいたご意見

※ 参考資料は、事前送付なし

本会議の位置づけおよび今後の進め方



※ 1.資料送付については、目次資料・当日投影資料(概要)・当日資料(当日用)等、段階に分けて送付します

※ (3)第3回検討WGにむけた0.ご意見〆切については、(1)第3回検証検討関連は1/20(月)、(2)第4回検証検討関連は1/24(金)までにご連絡ください

議事(1)

成果物(標準仕様書・導入手順書)の構成

議事(1)のゴール

- 「標準仕様書」の構成及び、「導入手順書」の構成/目次を合意する。
※「標準仕様書」の目次は、ご説明の都合上、議事(2)で協議いたします。
・・・⇒ 本日決定した構成に基づき、以後、「標準仕様書」及び「導入手順書」の素案を作成をします。

広域被災者データベース・システムの位置づけ

- 広域被災者データベース・システムは、市町村の区域を超えた**広域災害**において、**人災（災害関連死等）を防ぐ**ため、避難所に着目した支援から、より**人の動きに着目**したきめ細かい支援を行うため、**民間を含めた支援者**が被災者の状況を把握するため、に設けるものです。

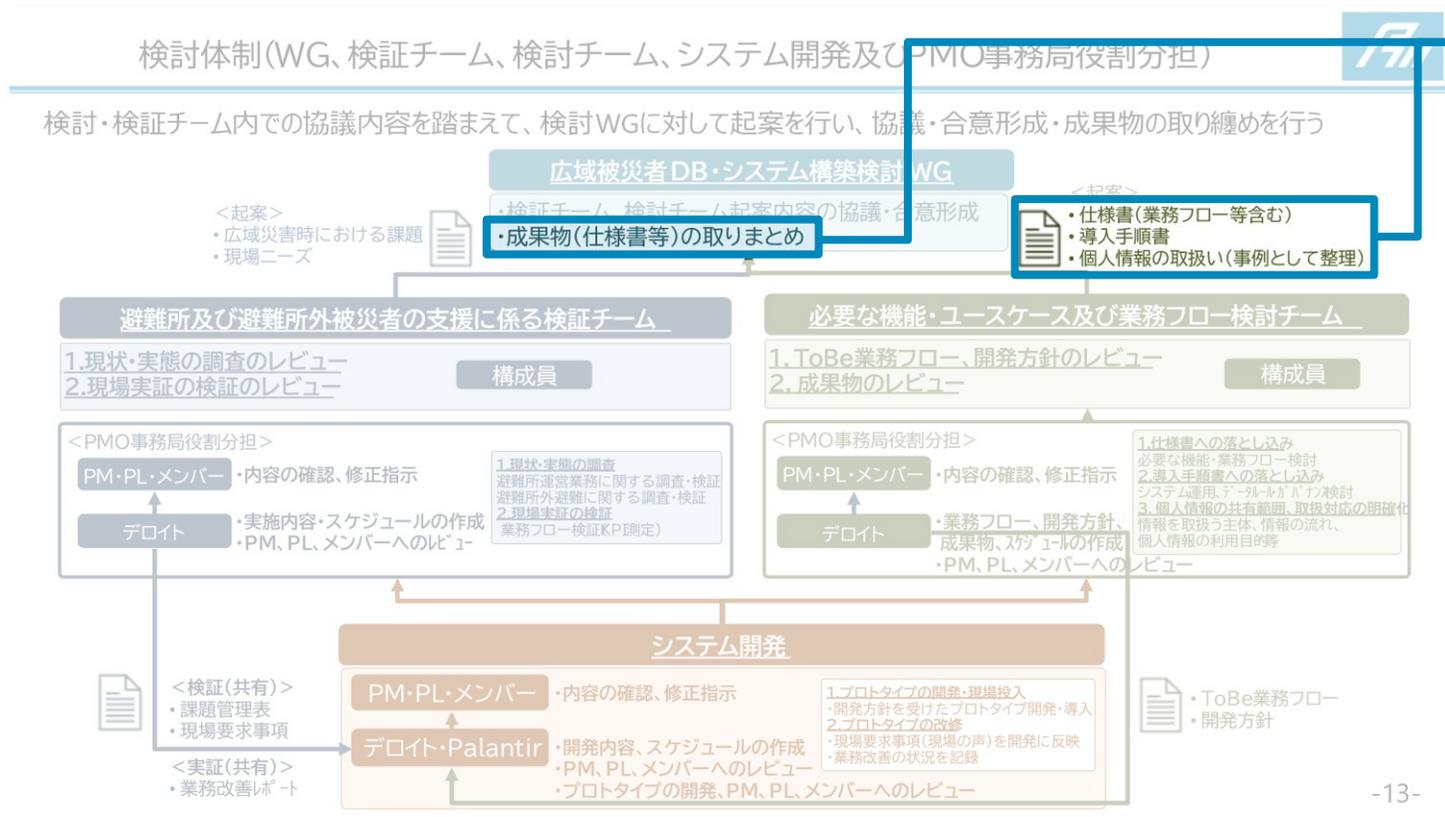
<広域被災者データベース・システムの運用期間>

	A.平時	B.発災時～応急期	C.復旧期、復興期
①通常災害			
②広域災害	事前準備	システムの起動	システムの運用

応急期：発災後3日目まで 復旧期：発災後1週間まで 復興期：復旧期以降
 ※避難所運営ガイドライン（平成28年4月内閣府（防災担当）の定義による）

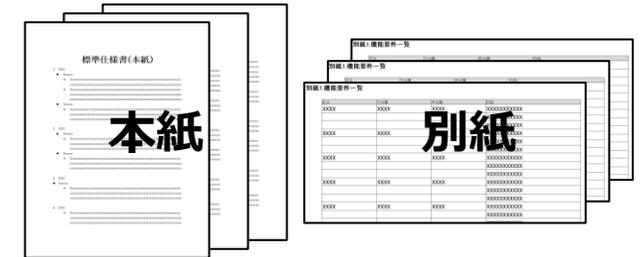
広域被災者DB・システム構築検討WGの役割と成果物

- 検討・検証チーム内での協議内容を踏まえて検討WGに対して起案を行い、検討WGにて、協議・合意形成・成果物の取り纏めを行います。※第1回検討チーム/検証チーム資料より引用
- 主な成果物は、「**標準仕様書**」と「**導入手順書**」の2つが対象です。



主な成果物

① 標準仕様書 ※6pご参照



② 導入手順書 ※7pご参照



「標準仕様書」の位置づけ

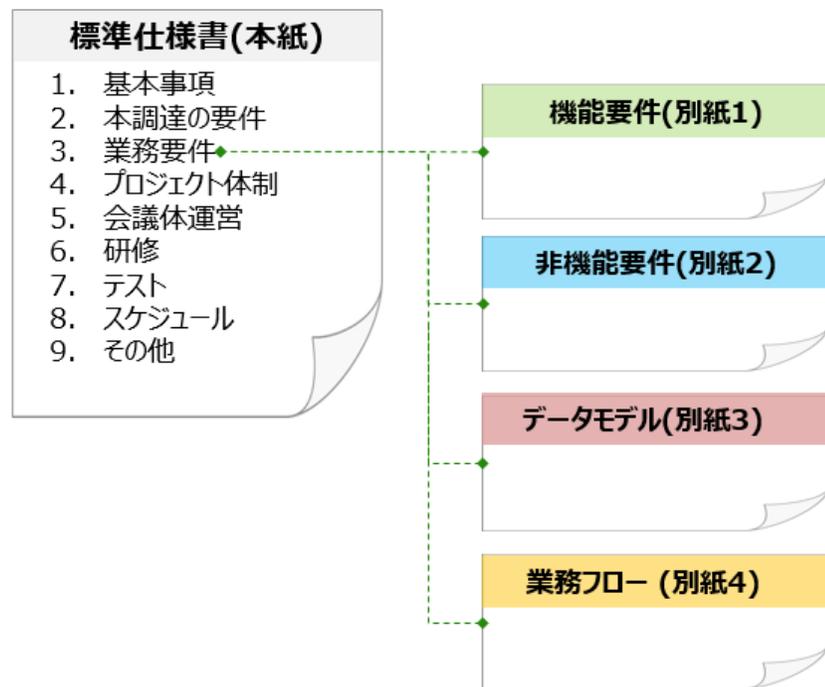
「標準仕様書」の位置づけ

仕様書

手順書

- 標準仕様書は、災害時に被災者の情報を一元的に管理し、迅速かつ効率的に支援を行うために、データベースの設計や運用に関する標準的なガイドラインや仕様をまとめた資料です。
- 標準仕様書は、石川県が構築した被災者データベースやユースケースを参考に、他の広域自治体がデータベース構築事業者を調達する際のベースとなる位置付けで作成します。
- 作成にあたっては、地方公共団体情報システムの標準化対象20業務の仕様書を参考に作成しています。
- なお、本システムは情報共有を目的としたデータベースシステムであり、個別業務機能は対象外としています。

標準仕様書の構成



各仕様書の概要

標準仕様書(本紙)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業の背景・目的から構築費用及び、プロジェクトとして実施すべき事項について簡潔に整理したもの
機能要件(別紙1)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業で構築するシステムに実装すべき機能面における要件を整理したもの ✓ 性能やユーザー利便性等基本的に満たすべき事項を基本要件として、業務上必要となる機能を機能要件として整理
非機能要件(別紙2)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業で構築するシステムの非機能面において満たすべき項目・基準を整理したもの ✓ 当資料はあくまで基準を整理したものであり、より具体的に示す必要がある項目は基本要件側にて定義
データモデル(別紙3)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業で構築するシステムにおいて取り扱うデータ項目と各データの繋がりを視覚的に表現したもの
業務フロー(別紙4)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本事業で構築するシステムの対象となる業務と、当該業務における業務と情報の流れを視覚的に表現したもの

「導入手順書」の位置づけ

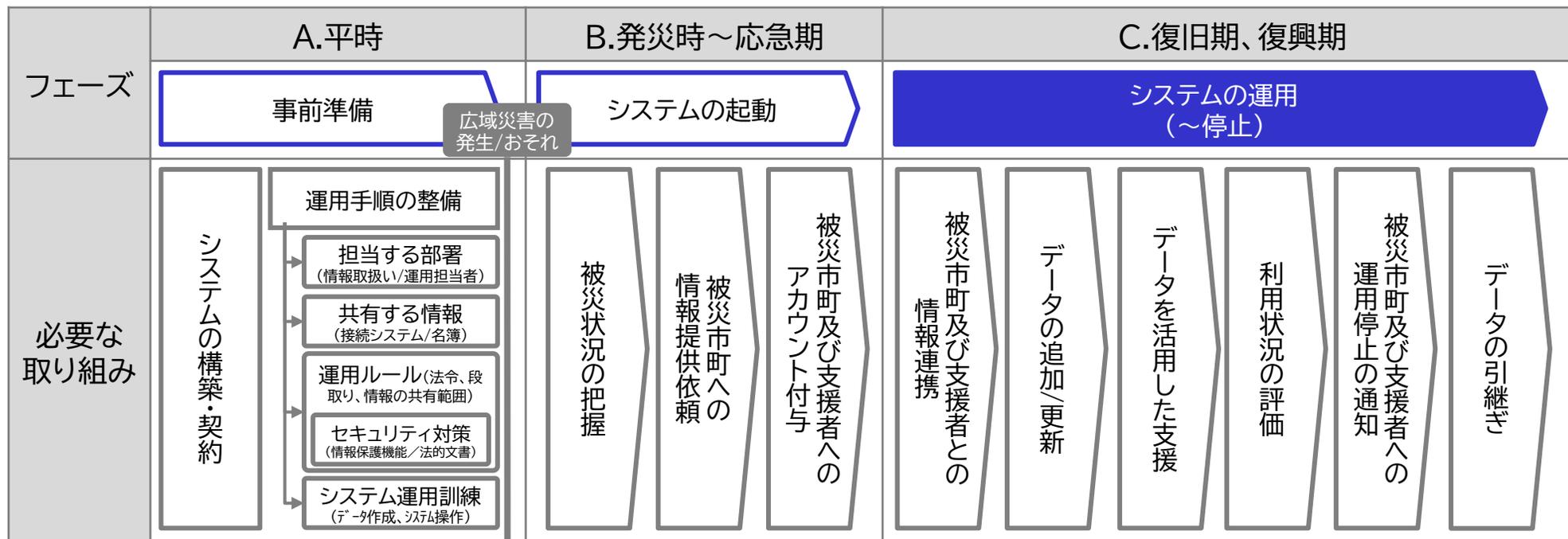
「導入手順書」の位置づけ

仕様書 手順書

■ **広域災害時に、発災直後から市町村の機能回復や多様な支援者による被災者支援が必要な期間**において、**行政区域を越えて被災者情報を共有**するため、**システムの起動から停止に必要な手順を導入手順書に整理**する。（初めて担当する職員も問題なく実施できるように）

- 各フェーズに必要な取り組み（枠組み/フロー）について、委員（有識者等）へレビューを実施、検討体制に諮り、導入手順書に反映したい。
- 「データを利活用した支援」については、想定する定型/定常業務以外の業務への利用拡大も想定

<広域被災者データベース・システムの運用期間>



「導入手順書」の位置づけ

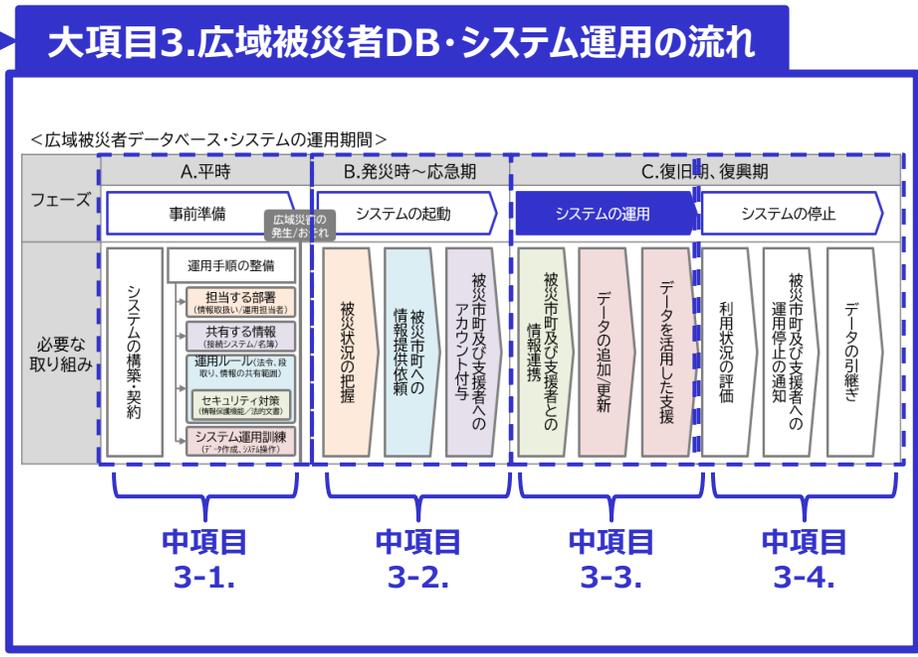
「導入手順書」の位置づけ

仕様書 手順書

- **都道府県によるシステムの円滑な導入に必要な手順を整理する。**
- **広域災害時の被災者の把握、民間を含めた支援者が同一の被災者に対して行う支援の記録など、被災者支援に必要な情報の適切な共有**（個人情報共有範囲や取り扱い、アクセス権の付与など）に係る**手順を整理する。**

<導入手順書の目次>

大項目	中項目	主な記載事項
1.はじめに	導入手順書の目的	
2.広域被災者DB・システムとはなにか	2-1. 整備の目的と背景	広域被災者DB・システム整備の目的と背景
	2-2. 概要	利用フェーズ、利用者、対象者、機能
	2-3. 前提条件	広域被災者DB・システムの性質
	2-4. 主な活用事例	避難所健康管理業務、見守り支援業務
3.広域被災者DB・システム運用の流れ	3-1. 事前準備フェーズの取り組み	体制、共有情報、ルール、セキュリティ対策、訓練
	3-2. システム起動フェーズの取り組み	起動の考え方、起動の手順
	3-3. システム運用フェーズの取り組み	運用の手順
	3-4. システム停止フェーズの取り組み	停止の考え方、停止の手順
4.広域被災者DB・システム導入・運用コスト	4-1. コスト負担の考え方	費用負担の主体、負担の方法
5.広域被災者DB・システムを運用する際の留意点	5-1. 個人情報の取り扱い	法令、都道府県と市町村の役割
	5-2. マイナンバー・マイナンバーカードの利活用	利用の課題、将来的な活用可能性
Appendix-1. 広域被災者DB・システムのデータを活用した支援業務事例	1-1. 石川県が実施した支援業務	広域避難対策、避難所外避難対策
	1.2. 将来的に活用可能性のある支援業務	被災者DB活用を検討した業務
Appendix-2. 個人情報の取り扱い事例	2-1. 個人情報を扱う上で石川県が対応したこと	業務上の課題対応、法的文書の作成
	2-2. 具体的な支援業務における個人情報の取り扱い	避難所健康管理業務、見守り支援業務において生じた課題と対応
Appendix-3. 用語集		



議事(2)

標準仕様書・導入手順書それぞれの
個別論点に係る協議(検証および検討)

第3回_避難所及び避難所外被災者の支援に係る検証チーム

第3回_必要な機能・ユースケース及び業務フロー検討チーム



議事(2)のゴール

- ① 「標準仕様書」について、現行システムで実現できていなかったこと・実現できていたが不便に感じていたことが洗い出され、標準仕様書の内容の方向性案が一定上がった状態とする。また標準仕様書の目次を確定する
- ② 「導入手順書」について、事前準備フェーズ(平時) 及びシステム運用フェーズ(復旧・復興期)において、都道府県や市町村等が備えておく事項が洗い出された状態とする
 - 本会議では、上記①は45分、②は60分確保し、それぞれ、検証・検討観点からの協議を行う。
 - なお、①②それぞれ別添PPT資料を基に協議を行うものの、最終的な成果物は、P.4の通りword形式が主となる。

議事(2)の協議ポイント

第3回_避難所及び避難所外被災者の支援に係る検証チーム
第3回_必要な機能・ユースケース及び業務フロー検討チーム

議事次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 成果物(標準仕様書、導入手順書)の構成
 - (2) 標準仕様書・導入手順書それぞれの個別論点に係る協議
 - (3) 全体質疑・事務連絡
3. 閉会

<配布資料>

- ・ 資料1_第3回検討チーム/検証チーム資料_概要資料
- ・ 資料2_第3回検討チーム/検証チーム資料_標準仕様書パート
- ・ 資料3_第3回検討チーム/検証チーム資料_導入手順書パート
- ・ 参考資料1_広域被災者データベース・システム構築検討ワーキンググループ開催要綱
- ・ 参考資料2_これまでいただいたご意見

※ 参考資料は、事前送付なし

	<検証>	<検討>
<p>① 標準仕様書</p> <p>(検証：30分 検討：15分)</p>	<p><機能要件(別紙1)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ システムの必要機能や、現行課題を洗い出す <p><非機能要件(別紙2)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザー視点でのニーズを抽出する <p>▶ 標準仕様書の内容の方向性案が一定上がった状態とする</p> <p>詳細は P.11</p>	<p><標準仕様書本紙></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以下2点を確認する ✓ 項目の抜け漏れ ✓ システム関連成果物の抜け漏れ <p>▶ 標準仕様書の目次を確定する</p> <p>詳細は P.12</p>
<p>② 導入手順書</p> <p>(準備※¹：30分 運用※²：30分)</p>	<p><事前準備フェーズ(平時)の取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共有する情報/運用ルール¹の策定について、実施状況と課題を共有する <p><システム運用フェーズの取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域避難及び避難所外被災者の状況把握/避難者の健康管理について、実施状況と課題を共有する <p>▶ 平時と復旧・復興期における対応やそれを踏まえた課題を整理する</p> <p>詳細は P.13</p>	<p><事前準備フェーズ(平時)の取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の取組みについて、次の災害に備えて取るべき対応策(ToBe)を協議する <p><システム運用フェーズの取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の取組みについて、次の災害に備えて取るべき対応策(ToBe)を協議する <p>▶ 平時と復旧・復興期に都道府県や市町村等が備えておく事項が洗い出された状態とする</p> <p>詳細は P.14</p>

※¹：導入準備フェーズ(平時)の取組みに関する検討検証の時間 ※²：システム運用フェーズの取組みに関する検討検証の時間

<①標準仕様書> 目次・委員の皆様コメントいただきたい内容

	検証	検討
仕様書	★	
手順書		

<検証> 目次

【前提】

1. 機能要件・非機能要件の概要と違いのご説明

【**機能要件** ※ システムが「何をするか」を定義するもの】

2. 作成経緯のご説明

3. 全体像と、本日の議論対象機能の位置づけのご説明

4. 議論対象機能要件のご説明と、県・市町職員に対し、
システムを活用する上で不便に感じていたこと・要望等のお伺い

【**非機能要件** のように動作するか」を定義するもの】

5. 作成経緯のご説明

6. 本日議論対象のご説明と、県・市町職員に対し、
システムを滞りなく活用できるようにするために必要な対応方針のお伺い

■ 特にコメントいただきたいご参加者：

【市町】令和6年能登半島地震の支援対応のご経験者の方

■ コメントいただきたい内容：

本システム利用時における画面イメージ等に関し
機能に対する課題感、およびその対応方針についてコメントをいただきたい。

✓ ご参加者ごとのコメントの観点

- 【市町】被災者DB利用時の課題感や、より使いやすいシステムとするために実現したい機能が反映されているか。具体的に、外部連携システムは何が挙げられるか。等
- 【広域自治体(都道府県)】災害経験を踏まえて必要機能が網羅されているか。等
- 【ベンダー】応札時を想定した場合のハードルや懸念点がないか。等
- 【有識者】整理すべき/考慮すべき観点・漏れがないか。等

仕様書パート資料のP.12~16をご確認ください

■ 特にコメントいただきたいご参加者：

【市町】令和6年能登半島地震の支援対応のご経験者の方

■ コメントいただいた内容：

本システム利用時における画面イメージ等に関し
機能に対する課題感、およびその対応方針についてコメントをいただきたい。

✓ ご参加者ごとのコメントの観点

- 【市町】被災者DB利用時の課題感や、より使いやすいシステムとするために実現したい機能が反映されているか。具体的に、外部連携システムは何が挙げられるか。等
- 【広域自治体(都道府県)】災害経験を踏まえて必要機能が網羅されているか。等
- 【ベンダー】応札時を想定した場合のハードルや懸念点がないか。
- 【有識者】整理すべき/考慮すべき観点・漏れがないか。

仕様書パート資料のP.23~27をご確認ください

①標準仕様書・検討

<①標準仕様書> 目次・委員の皆様コメントいただきたい内容

	検証	検討
仕様書		★
手順書		

<検討> 目次

【標準仕様書】 ※本事業の背景・目的・構築費用等を含め、プロジェクトとして実施すべき事項について簡潔に整理したもの】

1. 作成経緯のご説明
2. 全体構成と、本日の議論対象の位置づけのご説明
3. 議論対象のご説明と、**確認論点に沿ったご意見のお伺い**

■ 主にコメントいただきたいご参加者： 【ベンダー】、【有識者】

■ コメントいただきたい内容：

以下観点から、コメントをいただきたい。

- 標準仕様書として定義すべき項目として、章レベルで抜け漏れている要素がないか
- 標準仕様書及びデータベース構築事業として作成すべきシステム関連成果物に抜け漏れはないか
- ✓ ご参加者ごとのコメントの観点
 - 【広域自治体(都道府県)】ベンダーへの発注を想定した場合、規定や法令順守に抵触する等の観点から、リスクや懸念点がないか。等
 - 【ベンダー】応札時を想定した場合、応札の判断に迷う・応札のハードルが高まるリスクや懸念点がないか。成果物の抜け漏れがないか。等
 - 【有識者】成果物の抜け漏れがないか。本事業の趣旨に沿った仕様書となっているか。

⇒仕様書パート資料のP.31~34をご確認ください

②導入手順書・検証

<②導入手順書> 目次・委員の皆様コメントいただきたい内容

	検証	検討
仕様書		
手順書	★	

<検証> 目次

石川県における対応やそれを踏まえた課題を以下の観点で整理

【平時（事前準備）】

- 運用手順の整備
 - ・ 共有する情報（接続システム/名簿） [P.8,11]
 - ・ 運用ルール（法令、段取り、情報の共有範囲）
-セキュリティ対策（情報保護機能/法的文書） [P.14~15]

【復旧・復興期（システムの運用）】

- 被災市町及び支援者との情報連携 [P.26]
- データの追加/更新 [P.29]
- データを活用した支援 [P.32,34]

- 主にコメントいただきたいご参加者：
石川県が応急的に構築した被災者データベースの立ち上げ期から支援対応をご経験された方
特に、【石川県下の市町】

- コメントいただきたい内容：
石川県や市町の現況において関連する事実には誤りがないか、関連する事実から特に重視すべき観点、より深める観点、捉えておくべき観点について、コメントをいただきたい。

- ✓ これまでいただいたご意見例：
 - ・ 【被災市町】手法は現場のやり方があるが、情報項目を揃えることが重要
 - ・ 【避難先市町】段階が変われば支援に必要な被災者の情報も変わることを考慮し、被災者が帰還した時に、支援情報を被災市町にいかにか正しく伝えるか考えていたが、情報を戻す仕組みがなかった

⇒導入手順書パート資料のP.8,11,14,15,26,29,32,34をご確認ください

②導入手順書・検討

<②導入手順書> 目次・委員の皆様コメントいただきたい内容

	検証	検討
仕様書		
手順書		★

<検討> 目次

検証を踏まえ、都道府県や市町村等が備えておく事項を整理

【平時（事前準備）】

- 運用手順として、都道府県と市町村が行う取り組みと手順を整理
 - ・ 共有する情報[P.9~10,12]
 - ・ 運用ルール
 - セキュリティ対策：[P.16~17]
- ※一部「担当する部署」「システム運用訓練」を含む。

【復旧・復興期（システムの運用）】

- 被災市町及び支援者との情報連携 [P.27]
- データの追加/更新[P.30]
- データを活用した支援[P.33,35]

- 主にコメントいただきたいご参加者：
【広域自治体(都道府県)】と【石川県下市町】のご担当者様

- コメントいただきたい内容：

「平時(事前準備)」「復旧・復興期（システム運用）」の各フェーズに都道府県と市町村が行っておくべき役割と手順案について、ご担当者の視点からご自身を取り組むことをイメージいただくなかで、以下の視点から付加すべき要素や方法についてコメントいただきたい。

✓ コメントの観点

- ・ 発災後の対応の円滑化に向けた備えとして、提示の内容や方法の不足がないか
- ・ 提示の内容や方法（のちに手順書に記載する内容）を見て、当該段階ですべきことがわかり、実行に移すことができるか、できない場合には、何が不足しているか

⇒導入手順書パート資料のP.9,10,12,16,17,27,30,33,35をご確認ください

全体質疑・事務連絡

今後の検討会議体の予定

1. 日時・場所

【第4回検証検討チーム】

令和7年1月21日(火)10:00-12:00

石川県行政庁舎5階511会議室 ※オンラインで実施

【第3回検討ワーキンググループ】

令和7年1月31日(金)10:00-11:30

石川県行政庁舎13階1311会議室 ※現地・オンラインのハイブリッド開催

2. 主な議事

【第4回検証検討チーム】

① 標準仕様書

＜検証＞ 該当なし

＜検討＞ 機能/非機能要件/データモデルのToBe案、標準仕様書の本事業への適合性

② 導入手順書

＜検証＞ システム起動フェーズにおける取組例/システム運用フェーズにおけるデータ活用状況

＜検討＞ システム起動フェーズにおけるToBe案/システム運用フェーズにおけるデータ活用のための対応策

【第3回検討ワーキンググループ】

- 第3回及び第4回検証検討チームでの協議事項に係る合意形成
- 仕様書および導入手順書素案のご提示

3. 開催方法

オンライン開催（Webexを利用）

（事務担当）

ワーキンググループ運営事務局

デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社

検討WG運営担当 久保・廣田・畠山

Mail: digital_types_bousai@tohmatu.co.jp

石川県総務部デジタル推進監室 山森・谷場・杉浦

TEL: 076-225-1320

Mail: e120300@pref.ishikawa.lg.jp